

平成 25 年度事業報告

「公益社団法人」となり 2 年目を迎えた平成 25 年度は、これまでの日精診事業に加え、厚生労働省平成 25 年度障害者総合福祉推進事業、また、世情に即した内容のアンケート調査、講演会を柔軟に行うことで、会員、医療関係者の知識向上に取り組み、さらなる地域精神保健医療福祉の発展・向上に取り組んでまいりました。

【公 1】地域精神保健医療福祉の更なる向上を支援するための諸事業

1. 診療所における地域精神保健医療福祉事業についての調査・研究

(1) 地域精神科医療を取り巻く諸問題の現況分析のためのアンケート調査事業

臨床現場での治療・診断、また先端の医療情報など精神科医療に関する最新情報を調査・分析を行うとともに、報告書を通して地域に役立つ情報提供ができた。

A：地域福祉・デイケア委員会調査：精神科診療所デイケアの有効性調査・分析

・厚生労働省平成 25 年度障害者総合福祉推進事業

「精神科診療所における地域生活支援の実態に関する全国調査」

①精神科診療所の機能及び地域支援機能と社会的役割に関するアンケート調査

対象：会員 1601 名 FAX による調査

回収率：616 名 (38.5%)

②精神科デイケア等の現状に関するアンケート調査（施設用）

対象：693 施設(会員デイケア施設 231、訪問看護施設 107、非会員デイケア施設 335)

回収率：166 ヶ所 (46.4%)

③精神科デイケア等の現状に関するアンケート調査（個人用）

対象：693 施設(会員デイケア施設 231、訪問看護施設 107、非会員デイケア施設 335)

回収率：179 施設 1298 名回答

④レスパイト利用者の現状調査

対象：会員 1587 名

回収率：420 施設から回答、内レスパイト該当 67 ヶ所 (16%) (38.5%)

個人票 229 件

分析を行い、報告書を作成。

B：認知症等高齢化対策委員会調査：重度認知症患者デイケア実態調査・分析

・厚生労働省平成 25 年度障害者総合福祉推進事業

「精神科診療所における地域生活支援の実態に関する全国調査」合同調査

C：自殺対策プロジェクトチーム・埼玉精神神経科診療所協会

自殺対策プロジェクトチーム：

①自殺対策事業地区協会アンケート調査（9月13日）

対象：地区協会 47 県 回収：45 県 (95.7%)

分析・結果：調査の結果次のアンケートへと進む。結果は協会誌に公表

②地区協会アンケートの結果 10 地区に協力を依頼、自殺対策調査研究を深める。

埼玉精神神経科診療所協会調査（通年）

埼玉精診を中心に会員からの自殺既遂例報告を受集計分析を行った。

D：児童青少年問題関連委員会：児童青少年の精神医療についての情報交換と分析を行う。

(2) 地域精神保健医療福祉の向上を図るための全国診療所の現況のための調査事業

精神科診療所での実態調査を行うことで日精診としての精神科医療の在り方を研究し、今後の医療制度の問題点への指摘・提言できるデータを作成し、精神保健医療向上を目指す。

- A：医療制度対策委員会：医療制度・精神科救急関係調査
担当：医療制度対策・医療経済委員会
内容：平成25年度精神科救急医療アンケート調査
実施：平成26年2月20日 平成24年度アンケートから会員50名以下の地区協会9県を対象
返却数9県 回収率100%
情報提供先：ジャーナル掲載、会員、
講演会
実施：平成26年3月30日（日）13：00～16：00 AP品川J+K会議室
参加者数：26名
テーマ：「精神科医療のパラダイムシフト
～精神科における病診連携・身体科との連携の展望～」
講師：千葉 潜（医・財団）青仁会理事長・（公社）日本精神科病院協会常務理事
- B：医療経済委員会：医療経済関係調査医療制度協力
- C：精神科診療所から見た精神科医療のビジョンを考えるプロジェクトチーム：
外部講師との対談、精神科診療所調査及び訪問内容の分析を行う

- (3) 精神科医療現場で活用できる患者支援のためのシート・ソフト開発等の研究事業
これまで、行ってきたシート・ソフトの公開に当たり更なるバージョンアップをし、普及をおこなった。患者支援、現場支援につなげ精神保健医療向上につなげることができた。

A：診断書ソフト開発（継続）

担当：情報システム委員会
実施：希望者へ診断書ソフトを配布、また、平成26年度の診療報酬改定に対応するための準備
日程：通年

B：NSSサービス研究事業（継続）

当協会独自の「日精診版 社会生活支援（NSS）サービスシート及びCD開発・普及を続けることにより、現場医療職員への支援向上、患者への支援サービスにつなげてきた。また、全国研修会を開催することで、シート・CDの普及にも貢献。

担当：地域福祉・デイケア委員会

実施：委員会でのシート・CD研究・開発を行った。

日程：開発：通年

全国研修会：平成25年12月2日（日）10：00～16：30 AP品川 ABC会議室

参加者数：40名

講師：伊藤弘人（国立精神・神経医療センター精神保健研究所社会精神保健研究部部长）

テーマ：「医療政策から見たわが国の精神保健医療福祉の展望

—NSS（日精診版社会生活支援）サービス研究への期待—

成果・活用：医療・福祉関係者に広く利用していただくための、研究会を通して改良を行うことができた。

2. 精神保健福祉及び精神科医療に関する正しい知識の普及及び相談事業

(1) 地域精神医療保健福祉の向上に関する講演会開催事業

認知症や統合失調症等に対する一般市民への正しい精神医学の啓発、及び自殺対策、うつ病予防などの精神医学的、社会的問題への寄与、障害者を抱えた家族への啓発を行った。

A：公開講座「どんとこい！認知症Ⅶ」

担当：認知症等高齢化対策委員会

実施：平成25年11月10日（日）12：45～17：00 新宿明治安田生命ホール

参加者数：140名

特別講演：「認知症の地域生活支援—認知症とともに地域で生きる—」

講師：山口晴保（群馬大学大学院保健学研究科リハビリテーション学講座教授）
シンポジウム

シンポジスト：河口礼子、岡本典雄、浅倉恵子、松田幹子、

B：公開講座「第7回産業メンタルヘルス講演会」

担当：産業メンタルヘルス関連委員会

実施：平成25年9月29日（日）13：15～16：35 チサンホテル新大阪

参加者数：320名

特別講演：「職場のこころの健康づくり～上手な外部資源の使い方～」

シンポジウム・総合討論

シンポジスト：中尾文彦、生越照幸、坂元秀実、今村幸一、

コメンテーター：岡田邦夫、奥山真司、

C：公開講座「第5回みんなでかたろう！女性のメンタルヘルス」

担当：女性の精神科医療を考える委員会

実施：平成26年1月19日（日）13：30～16：30 新宿明治安田生命ホール

参加者数：154名

特別講演：「女性の依存症：インターネット・アルコール」

講師：樋口 進（独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター院長）

シンポジウム：田中理香、海老澤佐知江、高橋理枝、大田垣洋子（コーディネーター）

D：公開講座「第4回子どものこころの健康を考えるシンポジウム」

担当：児童青少年問題関連委員会

実施：平成26年1月26日（日）12：45～16：30 新宿明治安田生命ホール

参加者数：300名

特別講演：「おとなの発達障害～医療のできるささやかな支援について～」

講師：「発達障害のある成人の理解と果たしうる医療の役割」

岡田 俊（名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科 准教授）

講師：「発達障害を持つ人および彼らを取り巻く周囲の人たちへの支援」

青木省三（川崎医科大学 精神科学教室 教授）

ディスカッション：田中康雄（指定討論）、岡田俊、青木省三、

E：公開講座「第3回自殺予防対策講演会」

担当：自殺対策プロジェクトチーム

実施：平成26年3月2日（日）13：30～17：00 新宿明治安田生命ホール

参加者数：111名

特別講演：「ゲートキーパーと精神科医療との連携」

講師：張賢徳（帝京大学医学部附属溝口病院 精神神経科科長）

シンポジウム

シンポジスト：齋藤友紀雄、馬場優子、西村由紀、

総合討論：里村淳（指定討論）

(2) 各地区で展開されている講演会・相談会事業に対する助成事業

各県精神神経科診療所協会等で開催されている一般市民対象の講演会・相談会への助成を行った。

A：普及啓発事業

1. 講演会相談会「宮精診メンタルヘルス講演会」3回（25.10.16、25.11.9、26.2.1）宮城精診共催

2. 講演会相談会「第8回宮城産業メンタルヘルス講演会」（25.11.30）宮城精診共催

3. 講演会相談会「パーソナリティ障害からみた うつ」 (25.10.26) 山形精診共催
4. 講演会相談会「認知症フォーラム・ふくしま」 (25.9.29) 福島精診共催
5. 講演会「こころの健康講座すべての家族は満点である」 (26.3.23) 群馬精診共催
6. 講演会「復職準備性とリワークマニュアル」 (25.12.1) 埼玉精診共催
7. ミニ講演会「第4回千葉精診ミニ講演会」 (25.7.9) 千葉精診共催
8. 「主なこころの病気」冊子発行 (25.5.28) 千葉精診共催
9. 講演会相談会「第7回こころと福祉の相談会&講演会」 (25.12.1) 神奈川精診共催
10. 講演会「うち病の社会復帰をめぐる」 (25.12.1) 長野精診共催
11. 講演会「変わる精神科医療」 (26.3.29) 静岡精診共催
12. 講演会「家族がうつになった時～対応のヒント～」 (26.3.30) 愛精診共催
13. 講演会「発達障害の特性理解と支援」 (25.7.20) 滋賀精診共催
14. 講演会「滋賀県精神医療の救命救急科での取り組み」 (25.10.3) 滋賀精診共催
15. 講演会「市民講演会」 (25.8.28, 25.9.11, 25.10.18, 25.11.16, 25.12.5,
25.12.5, 26.1.27, 26.1.30, 26.3.3,) 大阪精診共催
16. 講演会「産業精神保健講演会」 (25.10.26) 大阪精診共催
17. 講演会「ハートフェスタ ～心と心のふれあい広場～」 (25.10.20) 兵庫精診(後援)
18. 講演会と相談会 第6回「不眠に悩むあなたへ」 (26.3.2) 福岡精診共催
19. 第27回北九州市民精神保健福祉の集い (26.3.8) 福岡精診共催
20. 精神科ユーザーの絵画展 (25.11.9・10) 福岡精診共催
21. 講演会「若年性認知症を生きる～今の気持ち～」 (25.5.12) 宮崎精診共催

(3) 地域の精神保健医療福祉の向上を図る精神保健無料相談及び電話相談への助成事業

精神科医療をより身近に感じてもらい、気軽に相談してもらうことを目的とした一般市民対象相談会事業に対して助成を行った。

A：街頭相談

1. 専門医によるこころの健康なんでも相談 (25.6.16) 大阪精診共催
2. 第19回こころの健康よろず相談 (25.10.27) 広島精診共催

B：電話相談

1. 専門科医によるこころの電話相談 (25.4.1～26.3.31) 東京精診共催

(4) 精神保健医療に関する情報提供のための啓発冊子（ブックレット）発行事業

一般市民を対象に精神保健医療に関する情報を提供することにより、精神保健福祉分野における正しい知識や地域の精神保健、医療、福祉に関する情報の普及啓発を図る。

A：ブックレット発行事業

特集：「大人の発達障害」

執筆（田中究：神戸大学大学院医学研究科精神医学分野）

発行部数：40000部発行

配布先：会員診療所、各地区協会、精神保健福祉センター、保健所等

3. 精神保健医療福祉に関する教育研究及び広報事業

(1) 地域精神医療保健福祉を担う医師への専門的知識の普及・技能の向上を目的とした研究会・勉強会事業

精神科医として精神疾患の診断・治療技術の向上、及び地域社会における活動の方法、地域精神保健医療福祉への在り方などについて研究会・勉強会を行い、国民の精神保健の向上に貢献。

A：学術研究会（北海道精神神経科診療所協会共催）

実施：平成25年6月29日（土）～30日（日） 札幌コンベンションセンター

参加者数：396名

テーマ：「精神科診療所の現状と展望- さらに多様化するニーズにこたえて-」
特別講演、メインシンポジウム、分科会等

B：第5回司法精神医学講演会

担当：医療観察法等検討委員会

実施：平成26年2月23日（日） 12：30～15：30 AP品川B+C会議室

参加者数：32名

講演：「医療・福祉と刑事政策」

講師：内田博文（神戸学院大学 実務法学研究科（法科大学院）教授）

C：第6回勉強会

担当：医療観察法等検討委員会

実施：平成25年10月6日（日） 10：00～12：00 AP品川 PQ会議室

参加者数：10名

講演：「刑事政策の動向と医療観察法」

講師：大杉光子（こもれび法律事務所 弁護士）

D：第3回医療観察指定通院医療機関連絡会議・勉強会

担当：医療観察法等検討委員会

実施：平成26年2月9日（日） 8：00～10：00 ラフレ埼玉

参加者：4名

(2) 地域精神医療保健福祉を担う診療所コメディカル及び医療機関従事者への専門的知識の普及・技能の向上を目的とした研究会・勉強会事業（医療及び精神保健福祉関係機関従事者対象）
精神疾患の診断・治療技術、精神科医療従事者の地域社会における活動の方法、地域精神保健医療福祉への貢献の在り方などについて研究会・勉強会を行い、国民の精神保健の向上を目的とする。

A：第14回チーム医療・地域リハビリテーション研修会：埼玉

担当：埼玉精神神経科診療所協会

実施：平成26年2月9日（日） ラフレさいたま

参加者数：378名

テーマ：「彩り豊かな地域に」

特別講演、震災報告、シンポジウム、分科会、P1グランプリ 等

B：各地区症例検討会：児童青少年問題関連委員会

①担当：滋賀県精神神経科診療所協会

実施：平成26年3月23日（日） ホテルニューオウミ

参加者数：10名

テーマ：「児童青年期の自殺未遂事例」

②担当：広島県精神神経科診療所協会

実施：平成25年10月1日（火） 19：00～20：30 R C C文化センター603 会議室

参加者数：8名

テーマ：「思春期事例」

講師：衣笠隆幸（広島市精神保健福祉センター）

C：各地区開催の会員・医療関係者対象研修会（各県精神神経科診療所協会）

1. 講演会「第12回東北精神科診療所医の会」

(25.9.7) 宮城精診共催

2. 研修会「産業メンタルヘルス研修会」

(25.9.28) 滋賀精診共催

3. 事例検討会「みんなで作り上げよう！事例検討会」 (26. 2. 22) 大精診共催
4. 講演会「児童虐待防止に関する講演会」 (26. 1. 26) 大精診共催
5. 勉強会「貧困ビジネスについての勉強会」 (25. 11. 20) 大精診共催
6. 研究会「大精診・大阪援護司会合同学術研究会」 (26. 3. 15) 大精診共催
7. 勉強会「医療制度に関する勉強会」 (26. 2. 25) 大精診共催
8. 研修会「第10回児童・思春期関連問題研修会」 (26. 3. 22) 福岡精診共催

(3) 他団体との共催による精神科医療関連の講演会・研修会事業

- A：日医共催事業「平成25年度 医学生・研修医等をサポートするための会」
 担当：女性の精神科医療を考える委員会
 実施：平成26年2月22日（土）18：30～21：00 京王プラザホテルあさひ
 参加者数：14名
 基調講演：
 ①「精神科医のリフレッシュ～アウトサイダーアートシュヴアルの理想宮～」
 講師：海老澤佐知江（アルバ・メンタルクリニック院長）
 ②「新しい精神医療の取り組み」
 講師：渡部芳徳（ほづみクリニック 院長）

(4) インターネットを介した精神保健医療に関する知識の普及啓発と心身の健全な育成を図る事業

インターネットを介し、国民へ正しい精神保健医療福祉に関する最新情報の提供を行う。また、地域における精神科医療機関に関する情報提供を行うことで、地域連携の役割を担う。

- A：ホームページ運営事業（情報システム委員会）
 講演会事業等をHPにアップし、一般市民、医療関係者への情報発信として、情報提供の場となる。

(5) 精神保健医療に関する情報提供のための学術・情報誌発行事業

精神医療保健福祉分野における最新の研究報告・学術情報・知識の普及、及び地域医療を担う精神科医療関係者の資質向上を目的として、年6回学術・情報誌、学術研究会報告集および、研修会特集号を下記のとおり発行した。

- A：協会誌「ジャーナル」及び「チーム医療地域リハビリテーション研修会報告集」発行
 担当：会誌編集委員会
 ①ジャーナル：204号（25. 5. 31）～209号（26. 3. 31）年間6巻発行 各号1800部～1850部
 ②チーム医療地域リハビリテーション研修会（埼玉大会号）報告集：26. 3 2000部
 ③学術研究会（札幌大会号）報告集：26. 3 2200部

4. 精神保健医療福祉に関する調査研究に対する助成事業

地域精神保健医療福祉の進歩に寄与すると思われる個人または団体による調査、研究、出版事業などに助成をする。平成25年度は下記の研究に対し助成した。

(1) 故田中健先生からの基金を1回300万円、10年間継続の研究助成事業

- A：田中健記念研究助成事業（平成25年度助成総額4,118,914円）
 ①就労支援がうまくいかなかった事例の研究
 ②精神科診療所における気分障害・不安障害で失職した患者に対する再就労支援に関する研究
 ③精神疾患患者におけるメカリックルームの病態調査と予防対策のための健康教育プログラム開発
 ④精神疾患による休職者の療養環境と家族関係についての実態調査
 ⑤自傷行為危険性評価尺度開発とその標準化に関する研究

以上、5件

*平成26年度学術研究会にて研究発表後、9月発行予定のジャーナルに論文掲載。

5. 災害時における精神保健医療福祉に関する支援事業

- (1) 被災者、精神科医療機関、保健所等への支援を行いながら、継続支援が必要な人を地域精神保健医療福祉につなげる事業、震災支援者のための援助事業を引き続き行っていく。また、あらゆる災害に対する支援対策について、全国の情報交換し各地で対応及び日精診としての対策を検討した。

A：震災支援対策全国会議

年1回開催。全国各地区での災害に対する取り組みなどを検討し震災に備える。

開催：平成25年10月27日（日）11：00～17：00 AP品川J K L会議室

参加者数：49名

議題：日精診災害支援対策本部から経過報告と今後の支援

地区協会での災害時の取り組みについての報告

現地報告等：災害時ストレスほっとライン、相双支援、石巻支援

B：災害支援対策マニュアル冊子作成事業

担当：地域福祉・デイケア委員会

「日精診 災害対策マニュアル」第二版の検討をした。

C：震災支援者のための電話相談事業（ほっとライン事業班）

平成23年10月から電話による支援者支援活動を開始。

担当：日精診災害対策本部 ほっとライン事業班 小林和（精療クリニック）

期間：平成25年4月1日～平成25年12月27日 月曜～金曜 昼12時～20時まで

相談件数：11件 今年度ではっとライン事業は終了。

【他1】地域精神保健医療福祉関連機関に対する協力事業

- (1) 地域精神保健医療福祉活動の向上を図るため、他の精神科医療機関、各種職能団体、社会復帰施設及び関連団体、精神保健福祉センター及び保健所、精神障害者社会復帰センターなどの諸団体、国、都道府県、市町村など関係行政機関との協力、援助を図り、診療所としてできる活動をさらに広げる。

A：厚生労働省、行政、日本精神科七者懇談会、日本臨床分科医会代表者会議、精神保健福祉連盟、等での情報交換、及び事業協力を行う。

【他2】会誌発行など会員への情報伝達を中心とした事業

- (1) 会員間での精神科医療に対する啓発、会員名簿作成により全国の会員の診療所情報提供を行うことで、地域連携に結びつく事業を行う。

A：会員・各委員会メーリングリスト（情報システム委員会）

担当：情報システム委員会

メーリングリスト開設状況：21件

①会員ML、

②各委員会ML

（地域福祉デイケア、児童青少年問題関連、産業メンタルヘルス、女性の精神科医療を考える、医療制度対策、医療経済、医療経済・政策合同、会誌編集、情報システム、学術班、）

③理事会ML、

④地区会長会ML、

⑤精神科診療所からみた精神科医療のビジョンを考えるプロジェクト委員会ML

⑥NSSプロジェクトチームML（4件）

- ⑦会員支援対策委員会ML
- ⑧自殺対策プロジェクト委員会ML
- ⑨障害者就労支援サポートプロジェクトML

B : MEDIFAX 等情報発信 (医療経済委員会)

担当 : 医療経済委員会

M E D I F A X 情報から日精診の活動につなげる。

(2) 機関紙、F A X ニュース等の発行により、会員への情報伝達を中心として行い、最新の医療情報を発信し会員の知識向上に貢献。

A : 会員向け情報「F A X ニュース」発行

担当 : 会長、副会長、事務局長

発行 : F A X ニュース 108 号～112 号 7 回発行、 全会員への情報提供 : 3 回発行

B : 会員向け情報「議事録誌」発行

担当 : 会誌編集委員会

発行 : 204 号 (25. 5. 31) ～209 号 (26. 3. 31) 年間 6 回 理事会議事録 HP 掲載 会員向け

平成25年度事業報告

平成25年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成26年6月

公益社団法人 日本精神神経科診療所協会